

発刊のことば

所長 柳 悦 孝

沖縄県は、日本列島の最南部、九州から台湾までの間に点々と続いている。黒潮に接し、青い海、広い空、静かな時は平穏で心地良いが、一度荒れ出すと驚くばかりの嵐となり、衣、食、住にわたって生活を脅かす。南国のことゆえ、冬の寒さはないが、夏の暑さ、照りつける日射は身にこたえる。これ等地理的条件から伝統ある生活が残されている。戦前までは遠い所であったが、今では日に何便も大型機が飛び、すっかり便利になった。

昭和61年4月、沖縄県立芸術大学が発足、那覇市首里に開学した。これはまことに意義深いことである。外面は変わっても沖縄には不変の命があり、深い思い、激しい祈りを誰もが持ち続けている。

はじめ、美術工芸学部が開かれたが、やがて音楽関係学部も開かれよう。今は当附属研究所で、芸術・文化学部門、伝統工芸部門、伝統芸能部門の活動が始まっているので、おいおい意義深いものが発表されてゆくことと思う。本誌はそれ等の花を咲かせる場となろう。